

あなたも30秒で情報通! 活用法いろいろ コミュニケーションペーパー



正月の言葉 正月の意味、元日と元旦

新しい年を迎える正月。1月1日から15日までにはいろいろな四季の年中行事があります。そんな歳時記を知ってちょっと知恵を身に付けてみてはいかがでしょうか。

●正月とは

一年の最初の月のことで、年神様(としがみさま)をお迎えする行事が「正月」です。年神様(としがみさま)とは新年の神様のことで「歳徳神(しとくじん)」ともいいます。

年神様はその年の作物が豊かに実るようにと山から降臨してきます。また、亡くなった人の魂が山の神となり、正月に年神様となって、子孫の繁栄を見守っています。

このように年神様は農耕の神様でもあり、祖先の神様でもあり、正月の間、それぞれの家に滞在



します。玄関に各家庭が注連縄(しめなわ)を飾るのはそこが、年神様がいるのにふさわしい神聖な場所であるということを意味しています。大掃除も歳神様をきれいにした家に気持ちよく迎えるためにするものなのです。

●元日(がんにつ)と元旦(がんとん)

元日は1月1日のことです。「元旦」は1月1日の朝のことです。間違っただけで使いがちですので気をつけましょう。年神様は1月1日の朝の元旦に降臨してきますからくれぐれも新年早々お昼まで寝ているなんていうことをしないように。元日に掃除をすると福を掃き出してしまうと言われていました。

そこで、元日は掃除をしてはなりません。だから大掃除は年神様をお迎えするために大晦日までに必ず終わらせましょう。





正月の言葉 小寒、寒四郎など

●元日～15日まで

正月は年頭の祝いをする三が日(一年の最初の日である元日から3日まで)や松の内(元日から7日または15日まで)をさすのが一般的です。「正」には「年の始め」という意味があります。



●歳旦祭(さいたんさい)

一年の始めに、新しい年・月・日を寿ぎ、年神様に感謝して、天下泰平、国民豊楽を祈願する厳粛な神事行事のことを歳旦祭といいます。

●小寒

今年の小寒は1月5日。冬至(2020年12月21日から数えて15日目頃)。冬至と大寒の間で、小寒とは寒さが加わる頃という意味で、いわゆる「寒の入り」のことを指します。小寒から節分までの30日間を「寒の内」といい、寒風と降雪の時節で、寒さが厳しくなる頃です。これから冬本番を迎えます。

寒稽古や寒中水泳が行われるのは、この「寒」の時季になります。因みに立春が「寒の明け」になります。



●寒四郎(かんしろう)

小寒から4日目が寒四郎になります。この日の天候がその年の麦作の収穫に影響があるとされています。

あなたもがが30秒で情報通! 活用法いろいろ コミュニケーションペーパー



正月の言葉 寒九、小正月、大寒

●寒九(かんく)

寒の入り(小寒)から9日目が寒九になります。この日に降る雨は「寒九の雨」と呼ばれ、豊穰の兆しという言い伝えがあります。また、この日に汲んだ水を「寒九の水」といいます。

寒の内の水は雑菌が抑えられ腐りにくいといわれています。中でも「寒九の水」は薬になるとか酒造りにおいて最高の酒ができる素ともいわれています。



●小正月

1月15日のことです。元日を大正月というのに対して名付けた名前です。松の内に忙しく働いた主婦をねぎらう意味で「女正月」とも呼ばれています。

大正月には門松を飾りますが、小正月には餅花(もちばな)などを飾ります。これは、豊作の予祝の大切な行事でした。そのため「花正月」と

もいいます。

朝に鏡開きのお餅を入れた小豆粥をいただきます。この餅のことを粥柱(かゆばしら)と呼びます。

昔中国では、小豆粥を炊いて家族の健康を祈るならわしがありました。

日本でも無病息災になるのを祈りお粥をいただく風習が残っています。この日はどんど焼きといって、神社で正月飾りや古いお札などを燃やします。



●大寒(だいかん)

1月20日頃～立春までの期間。

小寒から数えて15日目頃です。冬の季節の最後の節気です。

寒さがさらに厳しくなり、1年中最も寒い時季です。小寒から立春までの30日間を寒の内といい、大寒はそのまん中にあたります。



正月の言葉 お屠蘇、七草がゆ

寒稽古など、耐寒のためのいろいろな行事が行われます。また「寒仕込み」といって、寒気を利用した食べ物(凍り豆腐、寒天、酒、味噌など)を仕込むのに最もよい時期とされています。



●お屠蘇(おとそ)

お屠蘇は日本酒と思われている方も多いようですが、元々は中国から伝わった薬酒の一種です。その成分は山椒(さんしょう)、桔梗(ききょう)、防風(ぼうふう)、肉桂(にっけい)、丁子(ちょうじ)、陳皮(ちんぴ)、大茴香(だいういきょう)などの生薬を調合し、お酒やみりんに浸したものです。

お屠蘇には「鬼気を屠絶し人魂を蘇生させ

る」という意味があります。また、「邪気を払い、不老長寿を願う」薬種として飲む風習があります。新年になると年少者から順番に飲んだのだそうです。



●七草がゆ

7日の朝に「セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ、スズシロ」の七草が入ったかゆを食べて、その年の無病息災を願う風習です。七草がゆは消化吸収がよく、正月のご馳走で疲れた胃腸を休め栄養補給をするという実に理に叶った料理ですから1月7日に限らずに食べ過ぎ飲みすぎの翌朝に食すると良いです。

